

## 国保昔話

### 国保がない時代のこと

病気になったら病院で診察を受ける。現代の日本ではあたりまえのことがあたりまえではない時代がありました。国民健康保険というシステムがまだ日本になかった時代のことです。

国民健康保険制度は昭和13年に創設されました。

経済的に困窮していた当時の農山漁村。医療費が重い負担になっていたことや、病院や診療所が村の中に存在しないなどの理由で村民の健康状態は劣悪なものだったそうです。

第一次世界大戦後の大正9年、株式市場が大暴落。これをきっかけに起こった戦後恐慌で綿花・生糸の相場が半値以下になり、農山漁村の村民たちは経済に大打撃を受けました。

さらに追い打ちをかけるように、昭和4年の世界恐慌が日本にも影響し始めます。この時の不況は昭和恐慌と呼ばれる状態に陥りました。不況の波に飲まれた都市部の労働者たちは大量に失業。故郷である村に帰ることを余儀なくされました。

また昭和6年、東北・北海道地方の大凶作があったことで、農村の経済的困窮はさらに深刻化。そのような生活の中で最も脅威となったのがケガや病気。そしてその医療費でした。医療費を支払えないために農村の子どもが身売りされるという悲惨なことも起こったそうです。

参考：国民健康保険七十年史

## 諸外国の保険事情

出典：フリー百科事典ウィキペディア

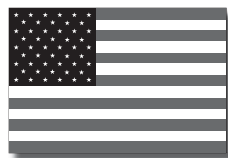


### イギリス

United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland

イギリスの国営医療サービス事業である国民保健サービスとは、患者の医療ニーズに対して公平なサービスをを提供することを目的に1948年に設立され、現在も運営されています。利用者の健康リスクや経済的な支払い能力にかかわらず利用が可能であり、自己負担はほとんどないか、無料で運用されています。

また、合法的にイギリスに滞在していると認定を受けられれば、外国人も国民保健サービスを利用することができます。患者のNHS医療サービスに対する満足度は非常に高いとされ、世界でもトップクラスの医療サービスと言われています。



### アメリカ

United States of America

アメリカの診療は自由診療が基本で、高額な医療費に備え、個人が民間の保険会社と契約します。ですが、低所得者は保険料の支払いが困難となること、医療費のかさむ慢性病患者などは保険会社から更新を拒否されたりする弊害があり、医療を受けられない国民が少なからず存在していました。

アメリカの自己破産の原因の6割は医療費が原因でさらに、その医療費が原因で破産した人の8割は医療保険に入っていたとも言われています。「医療費」と「保険」で、身体的のみならず、経済的にも病気やケガに苦しめられるアメリカ人は多いそうです。